

## 女性と災害管理 — ネパールから見えてくること Bhawana Upadhyay さん（ネパール）

災害に見舞われるのは誰しも苦痛ですが、災害時も災害後も、より大きな苦痛をこうむるのは女性と子どもです。なぜそうなるかという根本的な原因を明らかにし、公平で効率的な危機管理を講じるには、災害開発プロセスにおけるジェンダーの要素を理解することが重要です。

ネパール農村部での性別による不平等は、社会階級、人種、民族、年齢などがからんで、災害が発生前からその後を通じて、女性や少女たちはより危険で、脆弱になります。女性には危険に対する警告や情報が適切な時期に届かず、多くが犠牲になります。それは、女性がどこかへ出かけることも制限されたり、そうでなければ文化的、社会的な制約に縛られているからです。性差による偏見のせいで、災害で受けた身体的・心的外傷の治療を適切な時期に受けられないことが、女性の回復を難しくし、長引かせます。

女性も男性と協力して、緊急時には非常に重要な役割を果たします。例えば、洪水が起きた時、家族のために栄養のもとである食料を何日分も調達し、貯えるのは女性の役目です。また、水位が上がってきたらすぐ持ち出せるよう、身の回りの物をまとめておくのも女性の仕事です。男性が家畜を安全な場所に移し飼料を用意し、女性は、子どもや貴重品、調理器具の持ち出しを引き受けます。洪水時に家族を養う食料を準備し、次の耕作期用の種を保存するのは女性です。

コミュニティが自然災害に対して強くなるための総合戦略として、災害管理計画の各段階において、女性の力を取り入れなければなりません。しかし、災害対策では性別の違いについて適切に検討がなされていません。危険を減らし、災害を防止し、それを切り抜けて復興する女性の能力が、災害管理計画には取り入れられていないのです。対応の仕方や状況を把握する能力において、男女ではっきりした差があります。男性に比べ長生きし、性と生殖に関する性別役割のために、女性には運動能力や健康面で制約があります。高齢だったり、身体に障害があったり、妊娠中や幼児を抱えた女性が一番危険な立場にあり、知識や、移動能力、手段が限られているために、置き去りにされたり、逃げるのが最後になったりします。

災害の軽減、援助、復興が男女の別で差がある場合、災害時に経済的、社会的権利が侵害されることとなります。救援活動が女性の身体的、精神的な健康上のニーズ、特にトラウマなどに対応していない場合、適切な保健医療サービスを受ける権利が侵害されます。救援キャンプや仮設住宅で女性や少女が性やその他の暴力の犠牲になっているのであれば、

それは人間の安全に対する権利が侵害されているということです。もし、女性が自律的に行動できず、災害軽減と復興に関して意思決定レベルで完全に参加できていないのであれば、公民権、市民権が否定されることになります。

ネパール農村部の事例研究から、危険な状況や災害時にきわめて大きな影響を受けるのは女性であるということが分かります。例えば、家事や地域社会の仕事が増え、仕事場や職業用の道具を失ったり、介護の仕事が増えたり、DVや性的暴力の危険性が高まったりするからです。そのうえ、復旧に必要な手段の入手は制限されるため、災害時の女性の仕事は大きくふくれ上がります。

災害の危険性を抑えるには、その影響をさけたり、小さくする方策を取入れなければなりません。人権全般、特に女性の権利が、災害時も災害後も尊重され維持されるよう、リスクの軽減、管理にジェンダーの視点を組み込むことが重要です。